

A:よくできた(76～100) B:できた(51～75) C:あまりできなかった(26～50) D:できなかった(0～25)

領域	重点目標	H30 具体的な取組	教員		生徒		保護者		担当	改善の方策	改善の方策に対する評価(学校評議員による評価)			
			(H29)	H30 中間	H30 年間	(H29)	H30 年間	(H29)			H30 年間	(評価)		
信頼される学校づくり	効果的な情報発信	1 ホームページのブログの更新の頻度を高め、学校webサイトを充実させ、最新の情報を提供する	B	A	A	B	B	B	B	広報	昨年度よりブログの更新回数は増えた。4月～12月で比較してみると記事数は2割近く増加し、校長ブログを除けば80～158とおおよそ2倍になった。行事や部活動等の情報が広報委員会へ集まりやすくなったことが理由と考えられる。部活動顧問や学年との繋がりを更に密にするだけでなく、各クラスの広報委員も巻き込んでいきたい。webサイトに関しては、更新の作業を簡単にし、編集できる人数を増やせるようCMSへの移行を進めている。手続は完了したので、実際の運用に向けて取り組んでいきたい。	A	(93.8)	
		2 生徒が前面に出て活躍する場を提供するなど、学校説明会を充実したものにする	B	B	A	/	/	/	/	総務	生徒会や部活動に所属する生徒だけでなく、広報委員などが活躍できる場も設けていきたい。	A	(100)	
	危機管理体制の確立	3 防災HRの実施や内容を工夫した避難訓練を通して職員・生徒の防災への意識の向上を図る	B	B	B	B	B	B	B	総務	1学期だけでなく、2学期あるいは3学期にも、防災教育の機会を設けていきたい。	B	(68.8)	
		4 いじめ対応チームを設置して職員間の連携を密にし、生徒情報の共有を図り、迅速に対応できる体制づくりを確立する	B	B	B	/	/	/	/	生徒指導	いじめアンケートから生徒の危機サインの読み取り、その他相談窓口の追加、日頃からの教員と生徒間のパイプ作りの強化を、本校の「H30年度いじめ基本方針」の一部改訂や職員会議での呼びかけにより徹底した。週一度の生徒指導部会(生徒指導部・各学年生徒指導担当者・保健部)での情報交換を頻繁に行い、情報共有に注力した。いじめ対応チーム招集の担当者を明示化し、招集の際、迅速な判断を心がけた。	A	(83.3)	
	地域・家庭・関係機関との連携	5 三者懇談、保護者懇談会を通して学年・学級の取組に理解を図り、保護者との連携を深める	B	A	B	/	/	/	B	B	1学年 2学年 3学年	5月と10月の保護者会、夏休み中の三者懇談を実施するとともに、必要に応じて家庭との連絡をとった。学年通信の発行回数を増やし、学校の様子がさらによくわかるよう取り組みたい。 保護者会では特に修学旅行に向けての理解を図った。昨年に引き続き、個別な対応が必要な生徒には特に丁寧な対応を心がけた。また、学年通信ではできるだけ学校での生徒の様子を家庭に伝えるようにした。 5月、10月の保護者会、夏休み中の三者懇談、2学期末から冬休みの三者懇談、センター試験後の三者懇談、その他臨時の三者懇談を通して、進路を中心に生徒・保護者(家庭)との連携を深めた。学年通信により、学校での生徒の取り組みなどの様子を発信した。	A	(87.5)
		6 ボランティア清掃や学校評議員会等を通して、本校の取組への理解を図り、地域との連携を深める	B	B	B	/	/	/	/	総務	時期を検討して、より生徒が取り組みやすい状況を整えていきたい。	A	(83.3)	
学力向上と進路実現	職員の授業力・資質の向上	7 教科指導力向上委員会と連携し、研究・公開授業や大学の入試問題検討等を通して、教員の授業力の向上を図る	B	B	B	/	/	B	/	授業力向上	昨年度の活動を引き継ぎながら、研究授業週間の設定をし、研究授業の充実を図った。次年度も研究公開授業を積極的に実施したい。	B	(75.0)	
		8 指導教員を中心に校内での研修の充実を図り、校外研修を報告する機会を与えるなどして、初任者の育成を進める	B	B	B	/	/	/	/	総務	今年度に引き続き、研修の充実を図ってきたい。	A	(83.3)	
	すべての生徒の学力向上	9 3年間を見通した計画的な補習・補充やSHRでの小テストを実施し、生徒の学力向上を進める	B	B	B	B	/	/	/	進路指導	休業中の補習については学年毎に定めていた時間帯を統一した。平常補習については、時間を確保するために、1・2年は前後期制度を導入した。	A	(91.7)	
		10 量・質のバランスに配慮した課題を与え、「家庭学習の記録」を通して家庭学習の実態を把握する	B	B	B	/	C	/	B	進路指導 将来構想	「家庭学習の記録」は、担任が一言コメントをつけて返却し、学習時間は集計して懇談等において生かしている。 週末課題をさらに有効、有意義なものにするために、一覧表にして教科間の垣根を外して可視化することを推進。次年度以降学年と協力して、一覧表の慣例化を図る。	A	(93.8)	
	総合的な学習の時間の充実	11 目標(取り組み姿勢、社会性、考える力、発表する力)を明確にし、発表会を実施することで内容の充実を図る	B	B	B	/	/	/	/	総合学習	実社会、実生活の中で生きていく力を伸ばすために、自己探究を進めていけるよう内容を充実させていく。	A	(87.5)	
	進路指導の充実	12 生徒個々が将来の姿を考える機会となる講演会等を企画し、キャリア教育の充実を図る	B	B	B	C	/	B	B	進路指導	本年から文理選択につながるように、1年秋に模擬授業を、1年3月に文理選択が定まった上で社会人の講話を聞くという現実にも即した実施に変更した。	A	(87.5)	
13 利用しやすい進路指導室にし、面談や進路希望調査を通して1年から進路に対する意識の向上を図る		B	B	B	/	B	/	/	進路指導	昨年、進路指導室資料の整理を行い、年度当初に学年秀会で案内をしたため、3年生の利用が大幅に増えた。今後は1・2年生も気軽に利用できる場所にした。	A	(87.5)		
創造的な校風の樹立	演劇科の充実	14 1、2年の「朝読」の時間の設置や特別講義等の実施によって、読解力や思考力の向上に努める	B	B	B	/	/	B	/	演劇科	「朝読」の目的を、入学時に1年生に周知したい。「特別講義」についても、実施前に目的を伝えた方がよいと思われる。	A	(87.5)	
		15 専門科目等を通して対話力・表現力を身につけ、コミュニケーション能力の育成を図る	B	B	B	B	B	/	A	演劇科	保護者の評価は高いが、今年度は生徒の評価が低かった。演劇的な表現力を普段のコミュニケーションに生かす方を考えなければならない。	B	(75.0)	
	GS科の充実	16 シアトル研修を通して英語コミュニケーション能力を開発し、「世界」を意識させる	B	B	B	/	/	/	/	GS科	海外研修の費用が上がってきている。2019年度については大枠は決まっているが、2020年度に向けて潜在日数や研修内容の見直しを図りたい。	A	(91.7)	
		17 高大連携事業を通して、「学び」の意識の向上を図り、自らの将来像を考える機会とする	B	B	B	/	/	/	/	GS科	将来の自分の姿をイメージすることが大切だと考えている。そのため、講師の先生方に専門の講義以外に、キャリアについての講話をお願いしていきたい。	A	(83.3)	
	ふるさと貢献活動事業の充実	18 課題研究の取組を通して、自主的研究活動を促進し、思考力・判断力・表現力の育成を図る	B	B	B	/	A	/	A	GS科	1年生時に答えのない課題を適当数、取り入れていく。これにより生徒の主体的・対話的・協働的な学びが姿勢を確立する。外部での発表を前提とし、学会でも通用するような研究者としての基本姿勢を徹底させる。	A	(87.5)	
		19 養護学校等との交流を通して思いやりの心を育むとともに、自己有用感の向上を図る	B	B	B	/	/	/	/	総務	交流に参加した生徒の感想などと学年だよりなどでとりあげてもらい、参加しなかった生徒にも刺激を与えるようにしたい。	B	(75.0)	
国際交流事業の充実	20 提携校等との交流を通して、世界の中の日本、日本人のアイデンティティについて考える機会とする	C	B	B	/	/	/	/	国際理解	本年度は提携校受け入れの年度である。できるだけ多くの職員に関わっていただき、国際理解の仕事等を理解をさせたい。	B	(75.0)		
豊かな人間性の涵養	規律ある態度の育成	21 登下校のマナーや校門指導・授業開始時の挨拶や身だしなみの指導を通して、北高生としての意識の向上を図る	B	B	B	/	B	/	B	教務 生徒指導	チャイムと同時に授業が開始できるように、授業準備の指導にも力を注ぎたい。 毎日の登校指導では、担任外の全職員で協力・分担して遅刻・身だしなみ指導をきめ細やかに行った。登校時の生徒の顔色などを見て声かけを行ったり、担任と情報交換するなど、連携した生徒指導へ繋がっていき、下校指導では、特に考査期間中に下校時間が一斉に混み合う時間帯があり、重点的にバス停・徒歩通学路での立ち番を強化した。外部からの苦情が若干減ったように思う。	A	(81.3)	
		22 HR・「総合的な学習の時間」・行事等で、障害者や高齢者等異世代の方との交流を通して、人権意識の向上を図る	B	B	B	A	B	A	B	人権推進	例年通りの学習や活動だけでなく、講演会など新たな学習の機会を検討したい。	A	(87.5)	
	図書館利用の推進	23 「図書だより」を発行することによって、図書館の利用を啓蒙して、利用頻度の向上を図る	B	B	B	/	C	/	/	図書	利用頻度向上のために、「図書だより」だけでなく、館前・館内の展示場所を活用し、図書委員とともに蔵書情報を発信する。また、今後も推薦図書に加え、生徒・教員のリクエストに基づく受入及び蔵書・配架の見直しなど利用者が必要とする図書を提供できるよう努めたい。	B	(75.0)	
	保健・健康教育の推進	24 保健だよりや講演会等を通して、保健・健康教育の充実を進め、自分自身を大切にすることの育成を図る	B	B	B	/	/	/	B	保健	「保健だより(すみれ)」を毎月発行することができた。テーマを精選し内容もさらに充実したものにしたい。講演会についても学校医と連携し、自尊感情を高めることができるような内容で検討する。	A	(87.5)	
生徒会活動の充実	25 キャンパスカウンセラーとの連携を密にし、生徒に関する諸問題への早期対応ができる体制を整える	B	B	B	B	/	B	/	保健	カウンセリングの希望者が多く、希望に沿うことができていることもあった。カウンセリング回数増加を要望するとともに、職員とカウンセラーとの連携をすすめる、カウンセリングの円滑な実施を図る。	A	(81.3)		
	26 学校行事や集会等、生徒自らが企画・運営する場を与え、自主的に考え、活動する機会の充実を図る	B	B	B	/	B	/	/	生徒指導	行事で、生徒会とミーティングなどを細やかに、行事の進行、内容の精査、振り返りなどを確実に行う習慣づけをして、より質の高い運営を目指した。文化祭では、模擬店への取り組みを新たに追加し、内容もさらに充実した。30年度の生徒会選挙での立候補者が大幅に増え、定員がすべて埋まり(9名)、活性化した。外部での活躍の場も増やし、WHOと大阪大学が主催する「高校生国際問題を考える日」では本校生徒会長が4名のパネリストの一人として参加し、数百人の前でプレゼンテーション、ディスカッションを行った。またリーダー研修やピアカウンセラーミニ養成講座などを開催し、未来のリーダーの育成に注力した。	A	(87.5)		